

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 千葉県立流山おおたかの森高等学校
 種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()
 住所 〒270-0122
千葉県流山市大畔 275-5
 Website : <http://www.chiba-c.ed.jp/n.otaka-h/>
 児童生徒数：男子 390 名 女子 555 名 合計 945 名
 児童・生徒の年齢 15 歳 ~ 18 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

＜はじめに＞

千葉県立流山おおたかの森高等学校は、平成20年4月、流山東高等学校と流山中央高等学校の統合によって、県内初の「国際コミュニケーション科」を有する学校としてスタートした。本校の教育方針の1つである「国際化の進展した社会で活躍できる人間の育成」は、これからの時代を見据えた教育方針であり、本校において特色ある教育活動を展開するためのキーワードとなっている。本校はユネスコスクールとして、この国際理解教育を推進している。

①留学生との交流

(ア)「留学生が先生」

6月に1年生の全クラスを対象に、留学生との交流を実施した。麗澤大学の留学生を各クラスに1名ずつ講師として招き、「自国の文化」「日本との違い」などについて、写真や映像を使用しながら説明を受け、本校生徒も日本の文化を紹介し、伝統的な遊びを一緒にを行い、日本の食べ物や振る舞いながら意見を交換するという活発な交流を行った。

教育的な効果が上がるように、事前学習では、留学生の国の文化や歴史等、その国の概要を学び、調べ学習を行った。今年度は、「台湾」「ドイツ」「中国」「アラブ首長国連邦」「韓国」「モンゴル」「ベトナム」「カンボジア」といった世界各国の留学生を招き、生の声で異文化を知り、世界を身近に感じることができた。

(イ)「留学生とのグループ・トーク」

11月に1年生の国際コミュニケーション科の生徒を対象とし、お互いの国を紹介する「グループ・トーク」を麗澤大学を会場として実施した。1クラスを10のグループに分け、それぞれのグループに留学生が入り、「自分の国の誇れる文化」について、紹介し意見を交換し合った。今年度は事前にテーマを設定し、それぞれが自分の国について調べ学習を行ったことで、より活発な交流を行うことができ、世界の文化に対し興味、関心を持つだけでなく、日本の文化のすばらしさについても再発見する機会となった。

②レッドリンチ高校（オーストラリア）との交流

全校生徒の希望者を対象に、7月17日から2週間、オーストラリアのレッドリンチ高校で短期語学研修を行った。今年度は1・2年生合わせて24名の生徒が参加した。本校は、この短期語学研修を学校行事の一環で行っており、現地での生活が充実するように、オーストラリアの文化、生活、言語等について、出発前に事前指導を計画的に行った。

現地においては、この短期語学研修が日頃の英語学習の実践の場となるように、ホームステイを行い、学校内においてもバディー（授業等一緒に受ける現地高校生）と一緒に生活する時間を多く設定した。

帰国後も語学研修が単なる旅行にならないように、また、この経験を今後活かせるように事後指導を行った。この語学研修に参加した生徒は、帰国後、本校の授業に非常に積極的に参加する傾向が強く、他の生徒に対しても非常によい影響を与えている。

なお、平成26年度はレッドリンチ高校から短期の生徒受け入れを行う予定である。本校生徒と一緒に英語の授業や日本文化を体験するなど、両校の生徒にとって非常に有意義なものとなり、今後両校の関係がさらに発展することが予想される。

③アメリカン・サマー・キャンプ

平成20年度～24年度までは、国際コミュニケーション科の1年生を対象に、毎年2月上旬に福島県にあるブリティッシュ・ヒルズにおいて、2泊3日の英語研修を行っていた。講師、スタッフすべてが外国人という環境の下で、質の高い授業を受け、朝から夜まで英語のみというルールの下、実践的な英語力の向上を図っていた。また、その経験がその後の英語学習へのさらなる動機づけへとつながっていた。

今年度より、国際コミュニケーション科1年生を対象に「アメリカン・サマー・キャンプ」を実施した。7月14日から2泊3日で、茨城県のあすなろの里において、アメリカから10人の大学生を招き、朝7:00の英語での「ラジオ体操」から、夜8:00の「アメリカ文化体験」まで「スピーチ」「早口言葉」「パフォーマンス」「キャンプファイアー」「ダンス」等、英語漬けの生活を行った。「アメリカン・サマー・キャンプ」の特徴は、本校生徒4名に対し、アメリカ人1人という恵まれた環境の中で、英語による生活を送ることができ、授業だけでなく、休み時間や食事の時間も積極的にコミュニケーションを図ることができた。日本語を介さず即興的に英語を使用する場面が多く、生徒自身がその必要性を充分に感じ、その後の授業においてもその効果が表れている。

④地域の英語学習の拠点を目指した事業

(ア) 中学生対象英語スピーチコンテスト「おたかカップ」

近隣の中学生に英語による発表の場を提供する目的で、平成20年度より、毎年秋に中学生を対象としたスピーチコンテストを開催している。当初は参加者が10名程度で開催されていたが、その後、教育的効果が認められ、流山市教育委員会の後援をいただき、今年度は58名の生徒が参加した。また、「読み部門」「暗唱部門」「スピーチ部門」の3つに分かれているが、本校では「スピーチ部門」の出場を推奨している。これは、できあがった文章を読んだり、暗唱するのではなく、自分の考えを英語にし、伝えてもらいたいという考えからである。また、本校では海外帰国生徒等に対しても参加を認めている。これは、これから国際社会で生きていくためには、英語のネイティブスピーカーを排除することに必然性を見いだせないためである。

(イ) 小学校出前授業「高校生が先生」

今年度より本校英語教員と国際コミュニケーション科1年生が小学校に訪問し、英語の授業を行う「高校生が先生」がスタートした。今年度は流山市にある流山北小学校、鱈ヶ崎小学校、初石小学校の3校で実施した。流山北小学校では5年生に「カレーライス材料を買おう」というテーマを設定し、小学生がカレーライス材料と買い物の仕方を学び、高校生がスーパーの店員役となり、買い物の疑似体験を行った。本事業は地域の小学生に対して「英語学習の動機づけ」を行い、本校が地域の

国際理解教育の拠点となることを目指している。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）